

川根高校カヌー一部・見事「全国切符」 7/9

全国総体は8月6日～9日に山梨県・精進湖で開催

東海高校総体の女子団体総合優勝と男子4位の好成績を収め、全国高校総体への出場を決めた川根高等学校カヌー一部が鈴木町長を訪ね、結果を報告しました。来庁したのは、望月佑季奈部長(3年)をはじめ、全国総体に出場する選手8人と堀田校長、嶋副校長、顧問の皆さん。

望月部長が「全国総体でも好成績を残せるよう頑張りたい」と力強く決意を表明し、鈴木町長は「今一度、カヌーの町として、全国に知らしめて欲しい。町民全員が皆さんの活躍に期待しています」と激励しました。



数多くの賞状とメダルを手に、笑顔で町長を訪問

7/5 夏山シーズンの安全を祈願して

ユネスコエコパーク登録後、初めての夏山シーズンを迎えます



動植物や林業文化についてガイドから説明を受ける参加者

まちづくり観光協会主催の南アルプス寸又峡口山開き安全祈願祭が寸又峡公民館にて開催されました。式典は神事で執り行われ、鈴木町長や観光関係者など約80人が夏山登山の安全を祈願しました。

式典終了後には、南アルプスユネスコエコパーク登録を記念した増澤武弘静岡大学特任教授による特別講演や、「奥大井・南アルプスファンクラブ」会員のガイドによる寸又川上流部を探访するトレッキングツアーが開催され、参加者は南アルプスに対する理解を深めました。

「まず、地域の自然や文化を理解する」 7/4

役場商工観光課主催の南アルプスユネスコエコパーク勉強会が開催されました

南アルプスユネスコエコパークの理念や今後の活用策などを学ぶ勉強会が役場本庁舎・総合支所にて開催され、商工観光関係者や町職員ら約100人が出席しました。

講師を務めた東京農業大非常勤講師の若松伸彦氏は、海外の登録地域における成功事例からエコツーリズムの推進や農産物のブランド化などといった町が目指す方向性について説明し「大切なのは、まず地域の自然や文化を深く理解し、理念に沿った活動を継続していくこと」と参加者に訴えました。



海外の先進地域における取り組みを説明する若松氏

明るいまちづくりを呼び掛け 7/1

7月は「社会を明るくする運動」強調月間

明るいまちづくりの会は、犯罪・非行防止などを呼び掛ける街頭啓発運動を町内6カ所で実施し、町内の小中高全校を訪問しました。参加したのは、会長の鈴木町長をはじめ、保護司・更正保護女性会・民生委員・児童委員・人権擁護委員・駐在所警察官など約100人。たすきを掛け、のぼり旗を持った参加者は、通勤・通学者にうちわなどの啓発用品を配りました。

本川根中の宮島洸樹生徒会長は訪問団に対し「温かい見守りに感謝します。社会に貢献できるよう頑張ります」とあいさつしました。



△訪問団から啓発グッズを受け取る宮島生徒会長
「田代駒の里」前歩道で運動を呼び掛ける参加者

6/13 お魚さん、早く大きくな～れ！

桜保育園児が約1千匹のアマゴを放流



願いを込めて、ゆっくりとバケツを傾げる園児

新大井川漁協本川根支部は命の大切さや環境美化への意識高揚を目的に、桜保育園児18人によるアマゴ放流を行いました。小長井河内川に放流したのは約1千匹の稚魚。

園児たちは体長5センチほどの稚魚が入ったバケツを少しずつ傾け「早く大きくなってね」「元気に泳いでね」などと声を掛けました。

小長井河内川に放流するのは昨年に続き2回目で、放流後は川遊びを楽しみ「子どもたちだけで川に近寄らず、必ず大人と一緒に川遊びをする」と大きな声で約束しました。

消防署に頼るだけでなく、できること 6/27

ボランティア組織「EMS 川根本町」が AED 講習を実施

プール事故に備え、中川根南部小学校で本町出身の応急手当普及員約10人で構成するボランティア組織「EMS 川根本町」の指導員が AED 講習を行いました。参加したのは3人の応急手当普及員と中川根南部小教員の6人。

養護教諭の石川沙紀さんは「万が一に備え、教員一人一人の意識と応急手当技術を高めたい」と話しました。指導した神谷比徳さん(田代区=54歳)は「消防署に頼るだけでなく、住民でできることを探し、活動することで救える命がある」と応急手当普及活動の意義を話しました。



「周囲と連携して、冷静に素早く」と指導を受ける教員